

化学物質と環境に関する政策対話の今後の議題について

政策対話はこれまで計 7 回開催されており、主要なテーマは下記の 2 つに分けることができる。

- ▶ 「SAICM 国内実施計画の策定及びその点検」(第 1、2、6、7 回)
- ▶ 「メンバーから提起があった個別テーマに関する議論」(第 3、4、5 回)

下表に、これまでの政策対話における議題及びメンバーから提起があった個別テーマを整理したものを示す。

図表 政策対話におけるこれまでの議題とメンバーから提起があった個別テーマについて

開催回	議題	メンバーから提起があった個別テーマ
第 1 回 (平成 24 年 3 月 27 日)	<ul style="list-style-type: none"> ・化学物質と環境に関する現状と今後の課題について ・SAICM 国内実施計画の策定について 	① 予防的取組方法等の基本的な考え方 →第 3 回のテーマとして採用。 ② 高度化するリスク評価とそれを取り巻く課題 →第 4 回のテーマとして採用。
第 2 回 (平成 24 年 8 月 29 日)	<ul style="list-style-type: none"> ・SAICM 国内実施計画(案)について ・今後の議論の進め方について ・各省庁における最近の取組について 	③ 製品中の化学物質の表示 →⑨とあわせて第 5 回のテーマとして採用。 ④ 有害化学物質の廃棄処理 ⑤ 諸外国と比較した我が国の化学物質対策全体のあり方 ⑥ 事故時・災害時における対応のあり方 ※上記のほか、第 1 回政策対話では以下のテーマについても言及があった。 ・法律間の有害性情報の共有のあり方 ・化学物質ごとのリスク管理の連携のあり方(例えば労働安全と環境汚染防止) ・WSSD2020 年目標達成状況の評価(到達点) →SAICM 国内実施計画の点検により対応。
第 3 回 (平成 24 年 12 月 11 日)	<ul style="list-style-type: none"> ・予防的な取組方法の基本的な考え方について ・SAICM に係る国内外の動向について 	—
第 4 回 (平成 26 年 1 月 31 日)	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク評価の新たな展開とそれを取り巻く課題について 	⑦ ばく露評価の高度化 ⑧ 未解明の問題への対応 ⑨ 消費者に提供すべき情報や提供方法 →③とあわせて第 5 回のテーマとして採用 ⑩ 意思決定等への消費者の参加方法
第 5 回 (平成 26 年 8 月 4 日)	<ul style="list-style-type: none"> ・製品中化学物質に関するリスクコミュニケーションについて ・ICCM4 に向けた進め方について 	⑪ 消費者への製品中化学物質の情報提供方法 ⑪-1 製品中化学物質の表示(特に物質名)の統一 ⑪-2 製品中化学物質に関する情報提供システムの整備 ⑫ 製品中化学物質に関するリスクコミュニケーションのあり方 ⑫-1 消費者が化学物質に関して相談できる機関や場の整備 ⑫-2 消費者からの相談に答えられる人材の育成 ⑫-3 学校教育の必要性

開催回	議題	メンバーから提起があった個別テーマ
第6回 (平成26年 12月1日)	<ul style="list-style-type: none"> ・SAICM への取組状況及び今後の進め方について ・水銀に関する水俣条約に関する最新の動向の紹介 	<p>※SAICM の点検に関する指摘が主要なテーマであり、個別テーマの要望としては以下のとおり、既に挙げられているテーマのみであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の問題や消費者の環境学習 (⑫-2、⑫-3) ・消費者製品中化学物質の表示や情報伝達 (③、⑨、⑪) ・第三者的な評価機関や消費者に説明をしてくれる機関 (⑫-1)
第7回 (平成27年 5月21日)	<ul style="list-style-type: none"> ・SAICM への取組状況及び今後の進め方について ・国際化学物質管理会議第2回公開作業部会 (ICCM/OEWG2) の結果報告 ・(その他として) 内分泌かく乱作用に関する環境省の検討状況の報告 	<p>※これまでも提起があった、消費者製品中化学物質の表示の統一 (⑪-1)、内分泌かく乱作用の問題 (⑧) 未規制の殺虫剤有効成分 (⑧) の各問題のほか、以下のテーマについて提起があった。</p> <p>⑬ リスクコミュニケーションの内容の評価</p>